

2023 年度事業報告書

2023 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日まで

2024 年 6 月 22 日

特定非営利活動法人 イカオ・アコ

目 次

- 1 2023 年度活動報告
- 2 2023 年度会計報告
- 3 2023 年度会計監査報告

1. 2023 年度活動報告

1.1 総括

2023 年のイカオ・アコの活動実績として、

- (1) イオン環境財団、ニチバン株式会社、リコージャパン株式会社、日中友好会館、国土緑化推進機構から植林の助成金、寄付金をいただき、単年度で 188,079 本、累計で 220 万本の植林を達成した。
- (2) 新しい N 連のプロジェクトが始まった。ネグロスのイチゴプロジェクトが終了し、ボホールにて安全な水の供給プロジェクトを 3 年間、3 地域ずつ実施する。学校の校舎の屋根を利用して、雨水を集めタンクに貯蔵する。塩素で消毒して飲料水として活用する。併せて良好な衛生環境を整備するため、手洗い場を設置する。
- (3) Lush の助成金を活用して、在来種の Stingless Bee モンゴモンゴによる養蜂事業を開始した。1 年間で 1 つの巣から 100 から 300 グラムしか蜂蜜を採取できない。小型のハチで小さな花にも潜っていくことが可能である。モンゴモンゴは好戦的ではなく、分散型で養蜂するので、生態系を乱すことは少ない。
- (4) シライ市山間部の炭焼きの実態調査の最終年である。169 軒の炭焼き農家による木材伐採量は森林成長量の 3.8% である。今後、DENR への報告を行う。
- (5) 地球環境基金の助成金を得て、ボホールの離島を対象とした、2 年次のごみの減量化プロジェクトを実施した。
- (6) カーボンクレジット関連で企業から引き合いあり。国際農研の研究事業の支援。

を挙げることができる。

このコロナ禍や極端な円安からイカオ・アコの活動が 2021 年度から自主事業の部分で停滞している。

- (5) 自主事業であるボランティア受け入れ、日本企業の研修の実施が十分にできなかった。
- (6) 横浜ゴム様から継続的に古着を、リコージャパン様から文房具いただき、PO と学校に配布した。
- (6) 新しい事務所を建設するため、土地を確保したものの、新しいコンセプトの青空市場など商業的な施設を併設できない。新たにダウンタウンで中古住宅を探している。

1.2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

助成事業、委託事業として、以下の 8 本を実施した。

- ① 「干ばつが常態化するボホール州における、雨水貯留タンクの建設による、安全な水の供給と衛生教育の体制づくり」、外務省 N 連
- ② 「人と自然が共生する里山としてのマングローブ林の再生」、イオン環境財団
- ③ 「海洋プラ問題の緩和につながる、フィリピンの離島におけるコミュニティ

ベースの3Rとゴミ減量化の実践」、地球環境基金

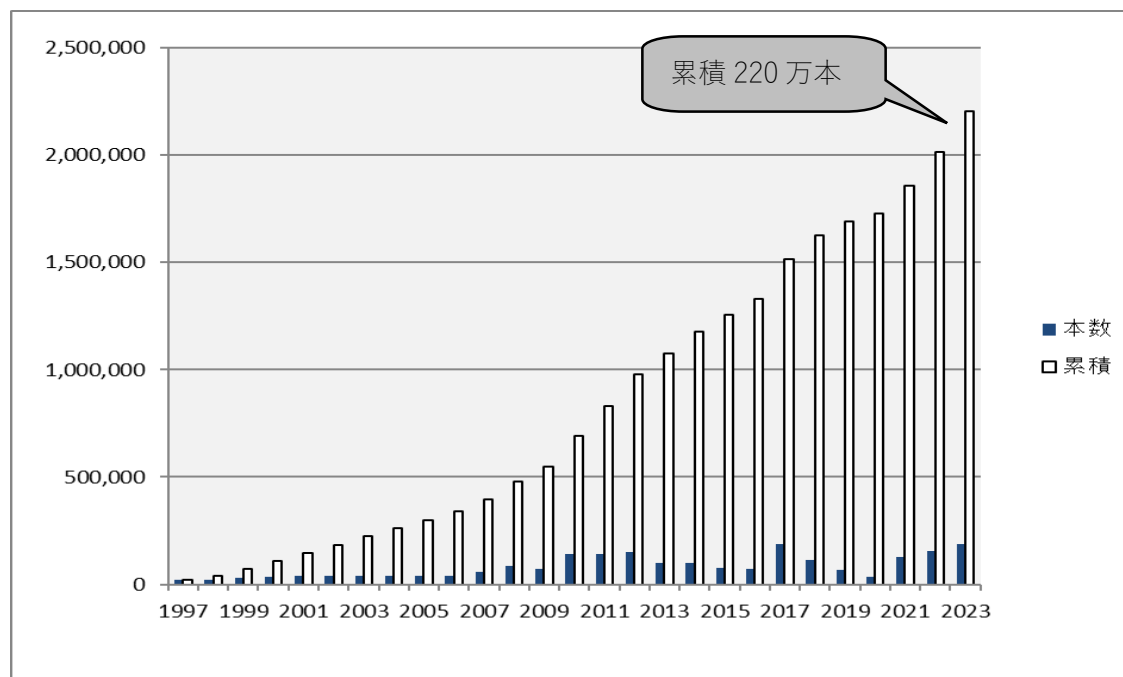
④ 「熱帯林における違法伐採による炭焼きの現状と持続可能性確保の調査・提言事業」、地球環境日本基金

⑤ 「気候変動を抑止するマングローブ林の再生事業」、日中友好会館

⑥ 「フィリピン沿岸部の自然再生のための植林事業」、国土緑化推進機構

⑦ 「子供達と植えよう！マングローブの森づくり」、国土緑化推進機構

⑧ 「One Health の考え方に基づく、持続可能な養蜂による森林保全」、Lush



収入内訳 (2019年度) 3,782万円	会費	20万円	0.5%	自主事業	602万円	15.9%
	寄付金	406万円	10.7%	受託事業	954万円	25.2%
	助成金/補助金	1,800万円	47.6%	その他	0万円	0.0%

収入内訳 (2023年度) 4,854万円	会費	10万円	0.2%	自主事業	4万円	0.1%
	寄付金	1,144万円	23.6%	受託事業	2,394万円	49.3%
	助成金/補助金	1,300万円	26.8%	その他	0万円	0.0%

(2) その他の事業に係る活動

その他事業の実施は 37,600 円である。

(3) 国内の事業

国内の事業を切り出して記述すると以下ようになる。

＜寄付集め＞

- ・名古屋市市民活動推進センターのなごや NPO 応援事業への参加

※なごや NPO 応援フェスタ、チャリティマラソンでのブース出展、フェアトレード商品の販売等

寄附金：合計 83,500 円

＜団体・活動紹介＞

連合メーデーでのブース出展（4/29 土）

名古屋 NGO センター主催 国際協力カレッジへのブース出展、スピーカー（12/9 土）

NPO 法人ハッピープラネット主催セミナーにスピーカーとして出席（3/30 土）

＜出前授業＞

桜丘高校へ訪問（6/13 火）

桜丘中学校の生徒による団体訪問（8/8 火）

加納中学校の生徒による団体訪問（9/29 金）

1.2 会議の開催に関する事項

(1) 総会

① 開催日時及び場所

2023 年 6 月 17 日 19:30～20:30 オンライン

② 議題

- ・2022 年度活動報告
- ・2022 年度会計報告
- ・2023 年度事業計画
- ・重点テーマ：会員を増やすための方策

(2) 理事会

① 第 1 回理事会

- ・開催日時及び場所 2023 年 6 月 17 日 19:00～19:30 オンライン
- ・議題

2022 年度活動報告案について

2023 年度事業計画案について

② 第 2 回理事会

- ・開催日時及び場所 2023 年 10 月 7 日 19:00～20:30 オンライン

- ・議題

2023 年度事業進捗について

③ 第 3 回理事会

- ・開催日時及び場所 2024 年 2 月 24 日 19:00～20:30 オンライン

- ・議題

2023 年度事業進捗について

	イカオ・アコの中期ビジョン改訂版(案)				2024～26 年度	
事業名	植林事業	農業の6次産業化	安全な水供給事業	ソーシャルビジネス事業	国内活動	組織運営
これまでの実績	・マングローブを累計220万本の植樹、参加者は毎年のべ2,000人超え ・パラリン・ボカナ・ビクトリアスにエコパーク造成 ・パラリンの住民団体が自立しつつある ・日本の大企業がCSRとしてイカオ・アコの活動を支援 ・山間部では植林したコーヒーの収穫 ・山間部で行われている炭焼きの実態調査	・肥料・イチゴ栽培の専門家の派遣 ・苗会社、肥料会社との連携 ・イチゴ栽培に必要なハードウェア整備（4サイトのうち、2サイトの生産がN連目標の50%を達成） ・ボホールに大規模液肥施設の建設（JICA草の根技術協力事業）	・日本水大賞受賞 ・バリグアンとシバトにランパンプを設置し、学校や地域に水を供給 ・ボホールの9地域で、9基（2023年度時点）の雨水貯水タンク、供給システムを建設	・オーガニックカフェ経営7年間 ・フェアトレード12年間 ・国際協力研修センター運営8年間 ・クラウドファンディングの経験	・桜丘高校などで特別授業、団体訪問の受け入れ ・ニチバン国内植林に参加 ・各種研修に参加し、職員の能力開発 ・ESDコンテスト、七夕短冊コンテスト等のイベントを開催 ・他団体のセミナーやイベントでの講師（スピーカー）	・日本本部事務所を移転（名古屋NGOセンターと同居し、情報共有などのメリットを追求） ・「Panasonic NPO/NGOサポートファンド for SDGs」を受け組織基盤強化に取り組む ・日比で人事制度・就業規則の整備 ・事務局職員を採用 ・会員管理ソフトを導入
中期ビジョン	植林参加の目的を多様化する	自立的な農業のモデルを作る	安全な水を地域・学校に届ける	ソーシャルビジネスを独立採算制にする	・SDGsへの取り組みが多くの人々に知られる ・参加型イベントが不定期に行われる	・働きやすい職場環境が整い、活動の支援ができる ・効果的な会員制度が完成
重点活動	・植林事業の見える化の取り組み（植林本数・映像・画像・ツールなど） ・エコパークを活用したエコツーリズムの再構築 ・植林ビジネスの展開（記念植樹・マングローブウェディング・オーナー制度） ・バガバットフェスティバルなどの植林イベントを開催 ・カーボンクレジット化のための営業 ・山間部で植林した果樹の収穫の計画	・専門家現地派遣 ・イチゴの栽培をネグロスの高地に拡散 ・イチゴ農園の観光化	・モデル地区に給水設備を設置しモニタリングを実施 ・省エネルギー・省資源の利水技術をマスター ・行政が主体的に水問題を解決する仕組み	・ビジネスの専門家の派遣 ・ビジネスパートナー（現地スタッフ）の雇用 ・カフェ、研修センターの再建（事務所を含む） ・研修センターを学生だけでなく、企業研修の受け皿に	・不定期に会員同士が交流できる場の設置 ・広報に関して①SNSの強化②HPの改訂③広告の活用 ・フェアトレードグッズを発掘し、国内で販売	・会員制度の構築（既存の個人情報利用、効果的な会員特典、入金確認がスムーズにできる管理システムの導入など） ・人事制度・就労規則・研修制度などの整備 ・現地インターン・ボランティア・プロボノの受け入れ ・総会・理事会の定期開催
3年目標と成果指標	・年間植林参加者数が、日本人100人、フィリピン人4,000人 ・植林に関するビジネス・事業が立ち上がる ・エコパークの建設、そのための資金の獲得（橋・タワー・看板など） ・山間部で商品開発（メロン、はちみつ、チョコレート）	・イチゴの生産性を日本水準の半分に接近（0.7 t / 10a） ・観光化促進のため、加工場とカフェの活用 ・温室18棟の積極的活用	・山間部・島しょ部に合った給水技術を啓発（淡水化装置も視野） ・1年に1校以上のペースで学校に安全な水を届ける ・上記のノウハウを持ったコーディネータを2名以上育成 ・行政・住民が参考にできるマニュアルの作成	・中古住宅を取得し、新たなオフィスとして活用。青空市場を併設予定 ・日本企業の研修を受け入れ（2社に拡大）、子供の英語教育のツアーなど新たな視点でのツアーにグレードアップ ・個人の植林ボランティア参加者の増加（50名/年間）	・国内で定期的に活動 ・会員同士の顔の見える関係 ・サービスグラントの「プロボノプロジェクト助成」（Panasonicの社員がプロボノとして参加）を受けながら事業計画、HPの改訂の実施	・国内外でスタッフを12人雇用 ・総会・理事会の定期的な開催 ・有料会員数（マンスリーサポーター）が30人 ・年間の個人寄付と会費収入が合計18万円 ・団体内部の新体制の構築